教職ハンドブック

英語英文学科

学生対象

英語教師になりたいあなたへ

Where there's a will, there's a way.

大妻女子大学文学部 英語英文学科

目　　次

C O N T E N T S

01 英語教師をめざす皆さんへ …… 2

02 履修条件、履修開始学年、教育実習、介護等体験 …… 3

03 教職カレンダー …… 4

04 授業紹介 …… 5、6

05 教育実習体験報告 …… 7、8

06 採用試験、採用試験対策、採用状況、大学院への進学（専修免許状の取得） …… 9、10

07 卒業生の声 …… 11、12

08 教職総合支援センターより …… 13

09 教職総合支援センターの紹介 …… 14

01 英語教師をめざす皆さんへ

教員免許状は、国内のすべての都道府県において、また国公私立学校の別なく有効で、大学で取得できる資格の中ではもっとも公的なものの一つです。

国際化が急速に進む今日の社会で、英語の力を高めることはますます重要です。広い視野を持って異文化と共に生きていける日本人の育成が求められています。そのためには英語の基礎力をしっかりと身につけた上で、心を開いて世界の人々と知恵を出し合える力を育てていかなければなりません。大妻女子大学文学部英語英文学科では、そうした視点に立って英語教育の専門家を育てています。

教職は大学卒業者でなければ就けない職業であり、専門性が認められています。また、勤務条件の観点からも教職に就いた誰もが生涯を通じて勤めることができる仕事でもあります。そこで、大学としても「教職総合支援センター」を設置し教職の道に進もうとする学生の支援に力を入れています。大妻女子大学英語英文学科は、英語教師を真剣にめざす方を歓迎します。

教育実習

02 履修条件、履修開始学年、教育実習、介護等体験

履修条件

教職は専門性が求められる職業です。したがって、英語の教員免許状を取得するためには一定レベル以上の英語力が必要です。そのため、教職課程の履修を継続するための基準が設定されています。それは、原則として2年次前期修了時までに英検2級に合格(またはTOEIC®L&R520点以上、TOEFL®ITP480点以上、TOEFL®iBT57点以上、GTEC-LR232点以上、CASEC620点以上を取得)していることです。この基準を満たさないと2年後期から始まる「英語科教育法 I」を受講することができません。その場合、「英語科教育法 III」を3年次終了までに修得できないことになり、4年次に教育実習に行くことができません。英検2級合格を基準にしているのは、それが高校卒業程度のレベルとされているからです。

また、目的意識と熱意が求められることはもちろん、生徒の多様化などの教育現場の状況変化に対応する力が求められています。教師の役割は分化・多様化しており、その理解も必要です。周りと連携しながら生徒の自発的な改善・変容の過程を観察する、という姿勢が教師に求められています。

履修開始学年

教職課程科目の履修は、1年後期から始めることを原則とします。2年次から教職課程の履修を希望する場合は、そのための履修計画を作成します。3年次からの履修を希望する場合は、卒業を1年延期するか大学院に進学することを前提とした履修計画を作成します。4年次からの履修を希望する場合は、大学院に進学することを前提とした履修計画を作成します。それぞれの履修計画は、教職課程委員に許可を得て、教職総合支援センターに提出します。

教育実習

教員免許状を取得するために不可欠な実習で、学校教育の現場で校長先生および指導教諭のもとで教員として求められる知識と技能を修得します。4年次の5月下旬から6月下旬の3 ～ 4週間で、中学校あるいは高等学校で行います。3年次末までに、「英語科教育法 III」を習得し終えていなければなりません。教育実習は、教師のやりがい、喜び、苦労などを直接体験して自分の適性を判断する格好の機会です。

介護等体験

老人ホームなどの社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の介護・介助等の体験です。ふだんあまり接しない人々の生き方や生活のしかたを知り、社会および人との関わりの上で大切な幅広い社会観と人生観を持つことを目的に体験的に学習します。「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めること」「人の心の痛みがわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現」という教育職員免許法の趣旨に基づいて、小中学校の教員免許状取得希望者の参加を義務づけています。

03 教職カレンダー

教員免許状を取得して教師になるまでには、介護等体験、教育実習、教員採用試験特別講座など授業以外の行事に参加したり備えたりしなければなりません。以下は、それらの準備のためのガイダンスとオリエンテーションのスケジュールです。これらを通して、万全の体制で一人ひとりをサポートします。

1年次

4月	4月教職課程履修ガイダンス（教職課程の説明、履修登録上の諸注意、介護体験の説明）
7月	教職課程履修ガイダンス（教職課程の説明）
9月	教職課程への登録
1月	教職課程履修ガイダンス（2年次以降の授業の説明、介護等体験の説明）

2年次

4月上旬	介護等体験届提出（社会福祉施設）
6月下旬	介護等体験ガイダンス（社会福祉施設）
8月以降順次	介護等体験開始（社会福祉施設での5日間）
10月	教員採用試験第1次特別講座オリエンテーション
1月下旬	教育実習手続きガイダンス（実習の依頼の方法説明）

3年次

4月上旬	介護等体験届提出（特別支援学校）
4月下旬	介護等体験ガイダンス（特別支援学校）
5月以降順次	介護等体験開始（特別支援学校での2日間）
5月下旬	教育実習調査票および内諾書提出（実習内諾書提出）
7月下旬～8月初旬	教員採用試験第2次特別講座【基礎講座】
11月上旬	教員採用試験第3次特別講座【教員採用試験の傾向と対策】
12月～4年次5月下旬	教員採用試験第4次特別講座【論作文講座】
1月下旬	教育実習確認訪問ガイダンス（教育実習受け入れ確認の方法説明）
2月下旬	教員採用試験第5次特別講座【応用講座】
3月下旬～4年次4月上旬	教育実習校確認訪問（教育実習の受け入れ確認と打ち合わせ）

4年次

4月上旬	教育実習関係書類提出
5月下旬～6月下旬	教育実習（3～4週間）
7月中旬	教員採用試験（各自治体主催）
6月下旬・8月中旬	教員採用試験第6次特別講座【面接対策講座】
8月下旬	私学教員適性検査（東京私立中学高等学校協会主催）
7月中旬	教員免許状授与願申請申込書提出
3月	教員免許状授与

04 授業紹介

教職に関する科目の一部を紹介します。
※変更が生じる場合があります。シラバスを参照してください。

「教職入門」(1年後期)

教職の意義や役割、そして教員の職務内容について学びます。また、教員採用試験などの進路選択に関する情報を提供します。

授業内容は、教師の役割、学校の組織と教員の職務、求められる授業、教職課程とは何か、生徒理解、積極的生徒指導の推進、特別支援教育とは何か、教職員の資質の向上と研修、など。

「教育心理学」(2年前期)

教師に必要な心理学的な知識と考え方を学び、教育現場の中で児童・生徒の理解に参考となる考え方やものの見方を養います。

授業内容は、発達の理解、知的機能の発達と教育、学ぶこと・教えること、知能、性格、不適応、学級集団・学校、発達障害の理解、など。

「英語科教育法 Ⅰ」(2年後期)

オーラル・イントロダクション(OI)の役割を理解し、効果的に実践する方法を学びます。OIとは、英語の教科書の内容を生徒に口頭で英語で伝える教え方です。易しい英語に言いかえたり、説明を加えたり、生徒に対する質問を入れたりします。それによって、和訳に頼らずに英語を理解する力を高めます。

授業ではまずOIのやり方を学びます。その後、OIの準備と練習をして全員の学生が発表します。また、ティーム・ティーチングでOIを行う方法も学び、発表します。なお、この授業はすべて英語で行われます。

「英語科教育法 Ⅱ」(3年前期)

英語教育の基本的理念と指導技術を学び、英語授業を実践する基礎的な力を身につけます。授業は講義形式ではなく，ワークショップ形式で進めます。また、教科書本文の読解に焦点を当てて、デモンストレーションを行います。そこでは受講生を中学・高校生に見立てた授業をします。その後、受講生は指導案を作成して発表します。

授業内容は、英語教育の現状と問題点、英語教授法の歴史的変遷、コミュニケーション能力とは何か、コミュニケーション能力を高める英語教授法、学習指導要領、リーディング指導法、指導案の作成、など。

「英語科教育法 Ⅲ」(3年後期)

教育実習での授業実践力を身につけるために、受講者全員が模擬授業を立案、実践します。新学習指導要領に対応して英語の4技能統合を念頭に置きながら、基本的な授業運びを体得します。英語による新出事項の導入や文法解説、言語活動、また英語教師(教育実習生)としての英語教育観・哲学について確認する機会を共有します。

「英語科教育法 Ⅳ」(3年後期)

英語教育学を広く深く理解するために7つのテーマを扱う。それらは、1)早期英語教育と児童英語教育、2)第二言語習得理論、3)学習者要因と自律学習、4)テスティングと評価方法、5)メディアの利用、6)世界の言語教育政策、7)英語教師の専門性である。これらを学ぶことにより、見識と洞察力を備え

た英語教師の育成を目指す。

「教育実習指導 Ⅱ」(4年前期)

教育実習に自信を持って臨んで責任を果たすことができるように、英語授業実践力を一段と高め、教育現場に対する理解を深め、教師としての心構えを築きます。

授業内容は、指導案作成方法の再確認、英語教科書の事前研究、教職の本質と重要性、教師の仕事の領域全般、生徒の興味・関心、人権尊重の精神、全体の奉仕者としての使命・職責、学校経営の実際や教育活動の仕組み、など。

「教職実践演習」(4年後期)

教職課程の履修を通じて学び身につけてきた資質と能力を最終的に確認し、それらを有機的に統合することをめざします。ここでは、今までの履修の過程を振り返ることで自らの課題を明らかにし、授業研究を行うとともに、グループ討議やディスカッションを通して教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力について実践的に考察します。

授業内容は、教育実習の振り返り、教職の意義と教員の責任、学級経営の基礎としての生徒理解、教員の望ましい人間関係、など。

教育実習

05 教育実習体験報告

4年次に行う教育実習は、教職課程でそれまでに学んだ知識と技能を実践する集大成の場です。そこで学生は、驚き、喜び、悔しさを味わい、感動し、反省し、自己を見つめ、教職への洞察を深めます。教育実習録から、学生たちが体験した実習の一部を紹介します。

Tさん（千葉県・中学校）

実りある充実した教育実習だった。中でも一番心に残っていることは、最後に企画してくれたお別れ会だ。手作りで花吹雪やくす玉を作ってくれて、とても感激した。生徒にもらった色紙、手紙、絵などは今でも部屋に飾ったり、手帳に入れて持ち歩いたりして大切にしている。それを見るたびに教員採用試験のために頑張って勉強しようという気持ちが湧いてくる。母校の中学校で教育実習ができて本当に良かったと思っている。

私が生徒に教えるだけではなく、生徒からもたくさんのことを教えてもらった。給食中に、「先生は今年の採用試験は厳しくて、先生になるのは無理かな」と思わず言ってしまったら、生徒が「何事もあきらめたらだめですよ」と言ってくれて、とても心が温まる思いがした。正直に言って実習に行く前までは一般企業に就職するのか教職をめざすのか迷いがあったが、実習を終えて自分の中に一つの答えを見つけることができたと思う。それに気づかせてくれたのが生徒たちだった。生徒や先生方との出会いはとても大きく、私の一生においてたいへん貴重な3週間を過ごさせていただいた。教員採用試験が大変であっても、教員になってから試練がたくさんあっても、それでも教師をめざしていきたいと思う。

その理由は、英語の楽しさを教えるだけでなく、「夢をあきらめないこと」の大切さを生徒に伝えたいという強い信念があるからである。私は中学生の時に、ソフトボールで関東大会に出場することができた。最初から強かったわけではなく、友達、先生、家族の支えがあったからこそ達成できたことだ。それは素晴らしい体験で、自分の自信の源となっている。私は21年間の人生を振り返ってみて、自分の原点は中学校にあると考え、生徒たちと共に学んでいきたいと思っている。

Kさん（神奈川県・高校）

今まで私は生徒として学校に通い、先生方に接してきた。そんな私にとって、先生方の存在は、担当科目について何でも知っており、頼りになる大人であった。しかし、実習中に見た先生方の姿は、驚くべきものであった。まず、授業に対しての事前準備や生徒の興味を引くための工夫に多くの時間を費やしていることを知った。教職課程の授業でそのことを学んではいたが、現場の先生方は日々たくさんの授業を持っているので、実際には準備の時間はそんなにかけられないと私は考えていた。私を担当してくださった先生は、15年以上勤めているベテランである。しかし、その長い経験にもかかわらず、現在でも授業への準備を怠らない。普段は試行錯誤して様々な挑戦をしているのだが、他の先生の授業を見学している私たちに、「他の先生はどのような授業を展開しているのか」、また、「自分の授業にはどの点で改善の余地があるか」と問いかけてきた。その先生が、いかに自分の授業の向上に熱意を注いでいるかを知って、深く感銘を受けた。

Yさん（東京都・中学校）

実習で最も感じたのは、教師の影響力の大きさです。生徒たちは、私の発言に耳を傾けて大切に聞いてくれました。だからこそ、こちらの意図しない一言が良くも悪くも大きな影響を彼らに与えてしまうことに注意しなければならないと感じました。気をつけなければならないのは発言だけではありません。ある日、一人の生徒が突然「先生、足だいじょうぶ?」と声をかけてくれました。どうやら、私のくるぶしに貼ってあった絆創膏をみつけて心配してくれたようです。それは靴に隠れて少ししか見えないのに、生徒は細かい点まで見てくれているのだと嬉しく感じると同時に、それだからこそちょっとした仕草や振る舞いにもっと気を配らなくては、と感じました。教師は常に生徒の手本となる存在であるということを忘れず、言動に気を配っていくことが大切であると学びました。

Kさん（埼玉県・中学校）

バスケット部の大会に引率する機会も得ました。会場の近くでは陸上競技が行われていて、行ってみると400mリレーが始まろうとしているところでした。ここで負けてしまえば3年生は引退です。リレーのアンカーは2年生で、私が授業中に注意しても反抗ばかりして言うことを全く聞いてくれない生徒でした。3年生の大会でアンカーを走るということは、彼にはそれなりの実力があり信頼されているのでしょう。彼は私の目の前を駆け抜けていきました。最後まで競って、そしてなんと優勝したのです。彼のあんなに真剣な顔を初めて見ました。そして私は、とてつもなく感動しました。こんなに期待に応えられるのに、教室ではなぜ勉強に集中できないのでしょう。きっと彼はしっかり勉強する力も持っているはずです。それを引き出すことができない自分に歯がゆさを感じました。私は実習を通して、生徒の接し方の難しさを知りました。中学生は一人ひとり個性が豊かです。自分の物差しで判断しないこと、生徒の個性を生かす指導を心がけることなどを、反省しながら学びました。

Mさん（東京都・高校）

生徒のモチベーションを上げるためには、教師自身のモチベーションが高くなければなりません。教師が笑顔で楽しそうに生徒と向き合えば、生徒も笑顔で楽しく学ぼうとします。教師は表情が豊かであることが大切だと思いました。

Kさん（千葉県・高校）

教育実習に行くまで高校生と関わることは日ごろなかったので、17歳が何を考え、何に夢中で、何に悩んでいるかまったく見当がつかず、不安が大きかった。

初めは、生徒の名前と顔が一致せず、話しかけるのが難しかった。ある実習生が生徒に話しかけたとき、名前を間違って呼んだことがあった。その実習生は「ごめん、ごめん、まだ名前覚えてないんだよ、なんだっけ?」と言ったのを聞いたとき、名前にこだわらずにたくさん話しかけて交流する方がずっと大切なんだと気づいた。そこから私も積極的に話しかけ、クラスや名前はわからないけれど顔見知りの生徒が増えていった。

私を指導してくれた先生は、生徒とのフレンドリーな関わりを重視していた。先生は「今日は、髪巻いたの?　かわいいじゃん」とか「次の授業で指すからね。予習しといてね」などと親しげに話しかけていた。生徒からもよく話しかけられて、悩み事を相談しやすい先生だと思われているようだった。このように、努めて信頼関係を築こうとする先生は素晴らしいと思った。3週間の実習期間ではその域に達することはできなかったが、将来は、その先生のように生徒との信頼関係が教育の大前提だと考える教師になりたい。

06 採用試験、採用試験対策、採用状況、大学院への進学(専修免許状の取得)

教員免許状を取得し、採用試験に合格することによって学校に勤務することが可能になります。合格するためには、採用試験の仕組みを知り、そのための対策をしっかり立てる必要があります。

採用試験

公立学校の教員選考は、毎年7月を中心に各都道府県および政令指定都市の教育委員会が主催して試験が行われます。ほとんどが2段階による選考で、1次試験では学力試験を中心に一部の自治体では論文と面接が加わります。2次試験では面接、論文、模擬授業、集団討論、実技などが課されます。論文では、教職への意欲および考え方、文章表現力、論理力等が評価されます。面接では、試験官と対面して教職への資質能力が評価されます。面接が1次試験で実施される場合は、集団面接の形態で実施されることが多いです。模擬授業は、授業実践力を評価する試験です。実施方法は様々で、面接試験の一部として実施されることもあります。また、事前に指導項目が示されて指導案の作成を求められることもあります。集団討論では、集団の中での自己表現力や協調性が評価されます。実技試験では、英語の会話力とリスニング力が評価されます。

私立学校の場合は、それぞれの学校独自の選考が中心となります。その方法は様々ですが、学力試験、面接試験、模擬授業などが実施されます。また、東京のように一括して私学教員適性検査(8月末)を行う自治体もあります。

採用試験対策

教員採用試験を突破するためには、適切な時期からの備えが必要です。大妻女子大学では、以下のスケジュールで、教員採用試験のためのオリエンテーションと特別講座を開いて合格のために準備します。

- **第1次特別講座オリエンテーション**(2年次10月)
  教職に就いた卒業生を招いて、仕事内容、やりがい、採用試験へのアドバイスを聞く。
- **第2次特別講座【基礎講座】**(3年次7月下旬～8月初旬)
  教育原理、心理、法規などの教職教養の基礎と一般教養を学ぶ。
- **第3次特別講座【教員採用試験の傾向と対策】**(3年次10月下旬～11月上旬)
  願書請求方法、試験の最新情報、学習方法を知る。
- **第4次特別講座【論作文講座】**(3年次12月～ 4年次8月下旬)
  採用試験で比重を増す論作文の書き方を学ぶ。学生が書いた論作文の添削を受ける。
- **第5次特別講座【応用講座】**(3年次2月下旬)
  教職教養、専門教養(英語)、一般教養および論文の講義を受ける。また、模擬試験を受ける。
- **第6次特別講座【面接対策講座】**(6月下旬・8月中旬)
- **1次試験対策として模擬面接を受ける。**(6月下旬)
- **2次試験対策として模擬面接を受ける。**(8月中旬)

採用状況

英文学科では、過去15年間で30名の専任教員を送り出しました。勤務する都県、校種、公立私立の内訳は以下の通りです。

都　県	採用人数	校　種			公立	私立
		小学校	中学校	高等学校		
青　森	1	−	1	−	1	−
宮　城	1	−	1	−	1	−
茨　城	2	−	2	−	2	−
埼　玉	18	3	14	1	16	2
千　葉	11	1	7	3	11	−
東　京	16	1	8	7	11	5
神奈川	1	−	1	−	1	−
静　岡	2	1	−	1	1	1
計	52	6	34	12	44	8

大学卒業時に採用された者もいれば、民間企業への就職を経験した後に採用された者もいます。また、小学校教員として採用された者の中には、卒業後に他大学の通信教育課程で小学校教諭の免許状を取得した者もいます。なお、この表で示した以外に非常勤教員として勤務する者がいます。

大学院への進学（専修免許状の取得）

1種免許状を取得した上で、本学大学院に進学して修士課程を修め、修士の学位を有し、教育職員免許法に定める所定の条件を満たすことによって、次の専修免許状を取得することができます。

・中学校教諭専修免許状「英語」

・高等学校教諭専修免許状「英語」

専修免許状を取得することにより、研究心をもった高度専門職者として評価されます。昨今、教員の職責を果たすためには、学部の4年間よりさらに高度な学習と研究が必要であると言われます。また、文部科学省関係の答申でも教員養成における修士課程の活用が主張されています。

大妻女子大学大学院人間文化研究科言語文化学専攻の「英語文学・英語教育専修（修士課程）」では、以下の英語教育学の科目を置き、英語教育の専門家を育成しています。

英語教授法研究、英語教育リサーチ方法、スピーキング・ライティング指導演習、リーディング・リスニング指導演習、児童英語教育方法、児童英語コミュニケーション演習、児童英語カリキュラム研究、児童英語教材演習

なお、「英語文学・英語教育専修（修士課程）」では、下記の英米文学、英語学の科目も学ぶことができます。

文学と理論、文学と制度、文学と自然、英米詩、英米小説Ⅰ、英米小説Ⅱ、英米演劇Ⅰ、英米演劇Ⅱ、英米散文、英語の構造、英語の意味、英語の音声、発話の機能、語法文法研究、談話分析研究、コーパス言語学、テキスト言語学

大学院についての詳しい情報は、下記のサイトをご覧ください。
http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/graduate/literature/index.html

07 卒業生の声

教壇に立った卒業生たちは、生徒と正面から向き合い、生徒の成長にやりがいを感じています。そして、自分自身も教師としての成長を続けています。そんな卒業生たちの声です。

Kさん（茨城県・中学校）

念願だった教員となり、早くも1年半の月日が流れました。教員になった理由は、大学で専門的に英語を学ぶ中で英語が大好きになり、生徒に楽しく英語を学んでほしいという願いを持つようになったからです。

私が最初に担当したのは、2年生の授業でした。緊張と不安と楽しさが入り交じった最初の授業は、忘れることができません。私のつたない授業を、一生懸命聞いてくれる生徒たちのために様々な活動を考えました。ゲームをしたり、歌を歌ったり、劇を作ったりして楽しく明るい授業をめざしました。それにもかかわらず、うまくいった授業はほとんどありませんでした。しかし、最初は英語にあまり興味を持てなかった生徒が、「英語って楽しい」「先生、英語ができるようになりたい」と言ってくれた時、教員になった喜びを実感しました。

教員は楽しいことばかりの仕事ではありません。つらい時も苦しい時もたくさんあります。それでも頑張れるのは、一緒に成長してくれる生徒たちがいるからです。私はこれからも、たくさんの夢を生徒と共に見ることのできる教員でありたいです。

Nさん（埼玉県・中学校）

今年は中学3年の担任です。担当する部活は女子バスケットボールです。中1の時から教えている生徒たちなので、お互い気心が知れていて色々な話が出来て楽しい毎日です。しかし、時には厳しい事を言わなくてはならない場面もあります。そこでは、生徒たちの自立や将来を考えて毅然とした態度で指導をします。生徒たちは今、体育祭や合唱祭の練習をしていますが、「自分たちで盛り上げよう」という気持ちにあふれ自主的に取り組んでいます。さすが3年生だと頼もしさを感じます。生徒たちの青春を共有できていると思うと、とても素敵な職業だと思います。

授業も大事にしています。生徒が興味関心を持てる教材を探し、それを使った活動を考えるのはとても楽しい事です。英語は生徒と海外を結ぶ教科です。そうした意識を育てつつ、歌を扱ったり、映像を見せたり、毎回生徒の反応を楽しみながら授業を行っています。

学校生活の中で、日々色々な事が起こります。生徒や保護者、また同僚の先生方への感謝を忘れず日々努力していこうと思います。

Mさん（東京都・高校）

週17時間担当している英語の授業のほとんどで、ペア活動やグループ活動など、生徒主体の活動を取り入れています。「わからないときは友達に聞いて良い」という雰囲気を作ることで生徒の緊張感が減り、生徒同士で助け合うことができます。生徒に授業に関する意見を聞くと、グループ活動が好きだという生徒がほとんどです。私にしかできない授業を生徒が好きだと言ってくれることに、やりがいを感じ

ています。

今年は2週間の海外研修の引率という重責を任されました。もう一人の教員と協力しながら生徒の安全を確認しつつ、英語を使い続けました。現地での生活を体験し、英語のすばらしさを再認識しました。また9月からは私のクラスにハンガリーから留学生がやって来ました。彼女とのやりとりにも英語を使います。いろいろな場面で、大妻で学んだ英語を活かすことができています。

Yさん（埼玉県・中学校）

私の授業での試行錯誤と工夫を紹介します。最初は厳しく、きちんと教えることを目標としていましたが、何か面白さが足りないと感じました。そこで、別の方法を取り入れることにしました。例えば、単語は意味だけではなく原義と絡ませて教えます。Wednesdayは「ゲルマン神話ウォーディンの日」という意味です。生徒によると、アニメに神様の名前がたくさん出てくるそうで、覚えてくれる生徒が多いです。今では、ペア活動を始め、ゲーム、歌、漫画のセリフ書き、さらに漫画のアフレコ発表会も取り入れています。どのようなプラス・アルファの知識と組み合わせればうまくいくかを考え、分厚い「ネタ帳」を作りました。先日、「先生のおかげで、英語への世界観がさらに広がりました」と声をかけてくれた教え子がいました。高校でも英語がとても得意だそうです。今後の成長が楽しみです。

時折、他の先生から「授業が面白いと聞きますが何をなさっているのですか」と聞かれます。これらの授業展開もすべて大学で培った知識の賜物です。基礎学力の定着、様々な授業理論、広い分野の教養。それらを活用することで、他の先生とは一味も二味も異なる授業をすることができます。大妻は、教員として大きく成長、活躍する力を身につけてくれる大学です。

08 教職総合支援センターより

◎英語科教員への期待が高まっています

皆さんは、全国の公立中学校で教えられている教科等のうち、最も授業時数が多いのは英語だと知っていましたか？英語はどの学年でも週４時間教えられていて、とても重要な教科として位置付けられています。高等学校においても英語科は重視され、科目構成や内容構成の改善が図られています。さらに、小学校でも英語教育が導入され、３・４年生は「外国語活動(英語)」を週に1時間、５・６年生は「外国語(英語)」を週に２時間学ぶことになっています。

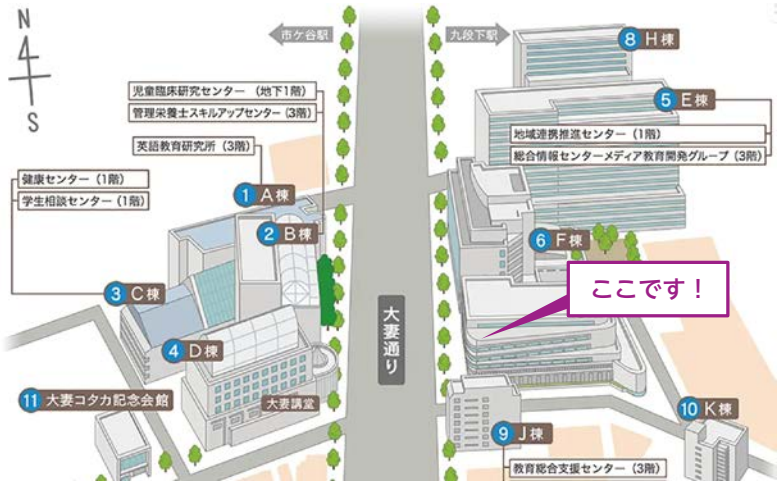
このように英語が重視されるということは、英語科教員に対する需要と期待が高まっているということです。教職はやりがいがあり、素晴らしい職業です。

「教員は忙しい」というイメージがあるかもしれませんが、現職教員を対象に行ったある調査によると、「生まれ変わったら何の職業に就きたいですか」という質問に対して「また教員になりたい」と答えた割合が最も高かったそうです。

◎教職総合支援センターは皆さんを全力でサポートします

私たちは、本学の英語英文学科に入学した皆さんの中から、一人でも多くの人に教壇に立ってほしいと願っています。教職総合支援センターには中学校や高等学校の教員経験をもつ４人の所員がいて、英文学科の先生方と連携・協力しながら、教職を目指す皆さんをサポートしていきます。具体的な活動内容は「09 教職総合支援センターの紹介」にあるとおりですが、まずはぜひ、J棟３階にあるセンターに足を運んでもらい、教員の仕事内容や実際の学校現場のこと、採用選考のことなどについて私たちと気軽に話してみませんか。お待ちしています。

大妻女子大学教職総合支援センター
宇田　剛



09 教職総合支援センターの紹介

大妻女子大学教職総合支援センターでは教職課程を履修する学生に対して指導や相談を行い、教員採用選考に合格して教壇に立つまでをサポートします。また、各種資格取得にかかわるガイダンスや情報提供等も行っています。

活動紹介

1）ガイダンスや相談、各種情報提供

- 教職課程ガイダンスの実施
- 学校ボランティアに関する相談や情報提供
- 各自治体の教員採用選考に関する情報の収集と提供
- 国や自治体の学校教育に関する情報の収集と提供

2）教員採用選考試験対策

- 教員採用選考に向けた学習会や特別講座の実施
- 採用選考試験受験のための学習内容・方法の相談
- 教職教養、一般教養の指導
- 論作文の指導
- 個人面接、集団面接、集団討論の指導
- 受験教科の模擬授業指導
- 受験教科の学習指導案作成の指導
- 教員採用選考に係る文書作成の指導
- 教職を目指す卒業生に対する支援

大妻女子大学キャンパス

教育実習

大妻女子大学文学部英語英文学科

教職ハンドブック

2023年4月1日発行

〒102-8357 東京都千代田区三番町12
大妻女子大学文学部英語英文学科
http://www.lit.otsuma.ac.jp/english/